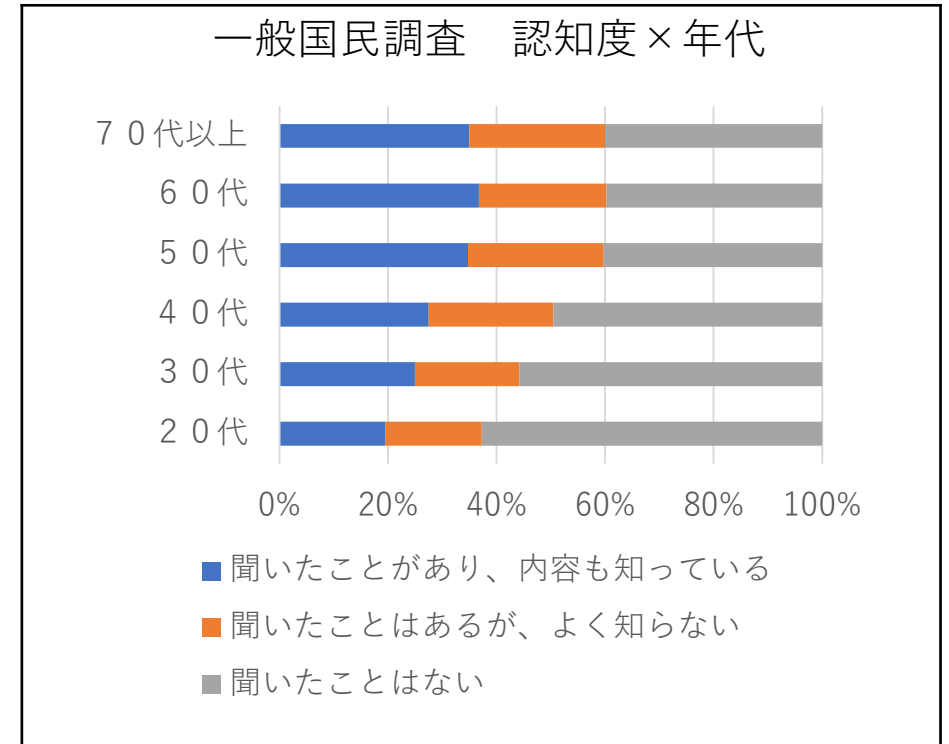


ヤングケアラーの基礎的な知識を教える

厚生労働省の令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業における「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」の報告書によると、一般国民のヤングケアラーについての年代別認知度は、60代が一番高く、年代が若くなるほど認知度が低くなっていました。また、その認知経路は「テレビ」が82.4%と最も高く、次いで「新聞」32.5%「Webサイト」14.8%でした。

このような状況を考えると、児童生徒のヤングケアラーについての認知度はあまり高くないと考えられ、自覚のないヤングケアラーについては、認知できるようにすることが大切です。

また、認知していたとしても児童生徒がふれた情報のみの断片的な理解に留まっていることがあります。そのためヤングケアラーの多様な実態や状況について教え、偏りの無い知識を身に付けさせることが重要です。



厚生労働省 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」
(令和4年3月 株式会社日本総合研究所)

授業例

小学校6年生 社会科「新しい日本、平和な日本へ」
高等学校 特別活動(ロングホームルーム)「在り方生き方教育」



掲載リストに戻る